



# 2020年3月期 1Q 決算説明資料

2019年11月7日  
株式会社ディー・エル・イー

1. 決算概況 P 2

2. 2020年3月期1Qの取り組み P 7

3. 事業計画 P 9




# 1. 決算概況

## 前年同期比で**13.0**億円(△87.8%)の減収、**1.8**億円の減益

-  東京ガールズコレクションを企画・運営している(株)W TOKYOが前期第3四半期末をもって連結対象でなくなったため減収減益

単位：百万円	2020年3月期 1Q	2019年6月期 1Q	増減額	前年同期比
売上高	181	1,489	△ 1,308	△87.8%
営業利益	△ 70	112	△182	—
経常利益	△ 70	110	△180	—
親会社株主に帰属する 当期純損失	△ 69	△ 39	△29	—


**<ソーシャル・コミュニケーション領域>**  
 (株)W TOKYOが前期第3四半期末をもって連結対象でなくなったため減収減益。ただし、同領域におけるDLE個別の売上は増収。  
 前1Q 148百万円 → 当1Q 178百万円(+20.0%)


**<IPクリエイション領域>**  
 前期の大型案件の反動減により減収減益

単位：百万円	2020年3月期 1Q	2019年6月期 1Q	増減額	前年同期比
売上高	181	1,489	△1,308	△87.8%
ソーシャル・コミュニケーション	173	1,337	△1,164	△87.0%
IPクリエイション	7	151	△143	△94.8%
売上総利益	103	422	△318	△75.5%
ソーシャル・コミュニケーション	97	373	△276	△74.0%
IPクリエイション	6	48	△42	△87.4%

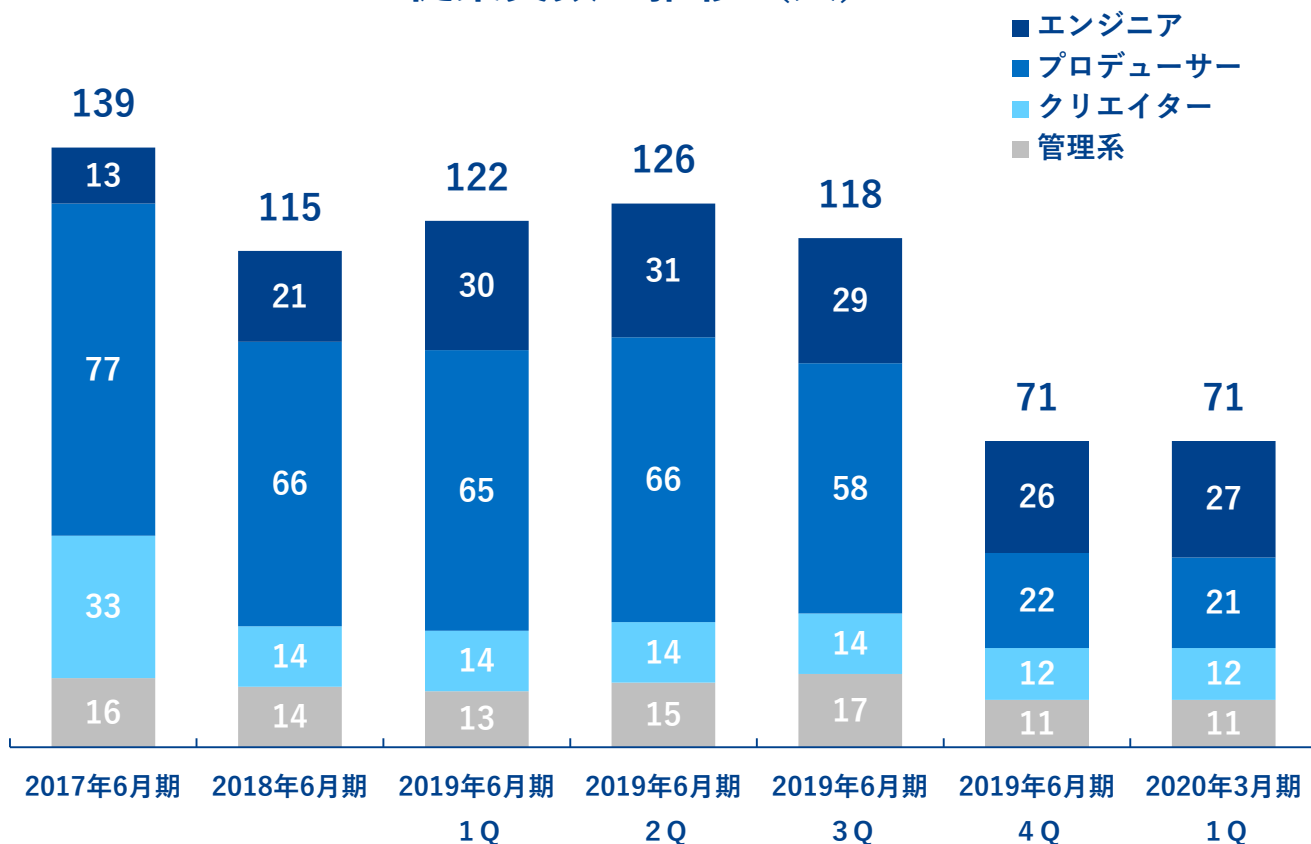


## DLE：納税および借入金返済のため現金及び負債が減少

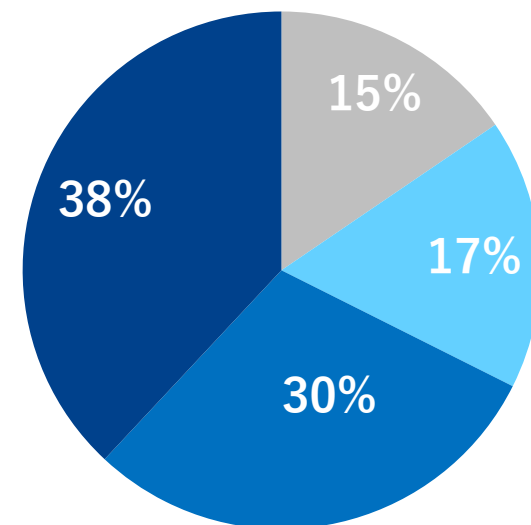
単位：百万円	2020年3月期 1Q	2019年6月期	増減額	前期末比
<b>流動資産</b>	<b>4,853</b>	5,193	△339	△6.5%
現金及び預金	4,260	4,508	△247	△5.5%
受取手形及び売掛金	140	193	△52	△27.3%
その他	452	491	△38	△7.9%
<b>固定資産</b>	<b>116</b>	109	+7	+6.4%
投資有価証券	24	24	-	-
関係会社株式	53	53	-	-
その他	39	32	+7	+21.8%
<b>資産合計</b>	<b>4,970</b>	5,303	△332	△6.3%
買掛金	44	34	+9	+27.0%
有利子負債	422	515	△93	△18.1%
その他	240	415	△175	△42.1%
<b>負債合計</b>	<b>706</b>	966	△259	△26.8%
資本金	2,916	2,916	-	-
資本剰余金	3,254	3,254	-	-
利益剰余金	△ 1,906	△ 1,837	△69	-
新株予約権	0	4	△4	-
<b>純資産合計</b>	<b>4,263</b>	4,337	△73	△1.7%

## 従業員数は概ね横ばい

### 従業員数の推移 (人)



### 構成比





## 2. 2020年3月期 1Qの取り組み



## 朝日放送（ABC）グループとの連携

- ➔ 当社IP「耐え子の日常」をアニメ化、共同事業として展開へ  
10月から関西地区ABCにて放送開始（首都圏はMXにて放映）
- ➔ ABCグループの販売ルートを活用し、当社コンテンツの海外販売を委託

## IP開発の基盤整備

- ➔ アニメ映画「若おかみは小学生」の高坂希太郎監督を中心とした  
開発体制強化のため、スタジオを開設



## 3. 事業計画

(2019年8月2日開示 中期経営計画より抜粋)



連結売上高20億円達成



21/3期を目処に営業利益を黒字化し、22/3期で連結営業利益1億円達成

## <重点戦略>

1. 既存事業に対するビジネスプロデュースモデル構築投資によってキャッシュカウ化
2. ブランドプロデュース事業中心に新規事業等へ20億円規模の中長期成長投資を実施し、23/3期以降の収益基盤を確立
3. 朝日放送グループ各社との連携確立



内部管理体制の改善・盤石化



短期（～1年）、中期（～3年）のIPビジネス投資によって着実に収益を獲得できるビジネスモデルを確立

## 短期回収型 投資

- セールスプロモーション事業における広告・人材投資
- 既存IPを活用した新規ビジネスモデル構築投資

## 中期回収型 投資

- 新規IP開発投資
- 高坂希太郎作品等の開発体制（スタジオ等）構築投資
- 自社IPに対するメディア投資
- 朝日放送グループと連携したコンテンツ制作及び出資



IPプロデュースビジネスで得たノウハウをブランドプロデュースビジネスへ展開し、既に確立されたブランドで収益を獲得

ブランド獲得

育成・再構築

マネタイズ

世界に通じるポテンシャルを有するブランドを提携・買収によって獲得

ブランド価値を企業価値に昇華させる基盤を構築

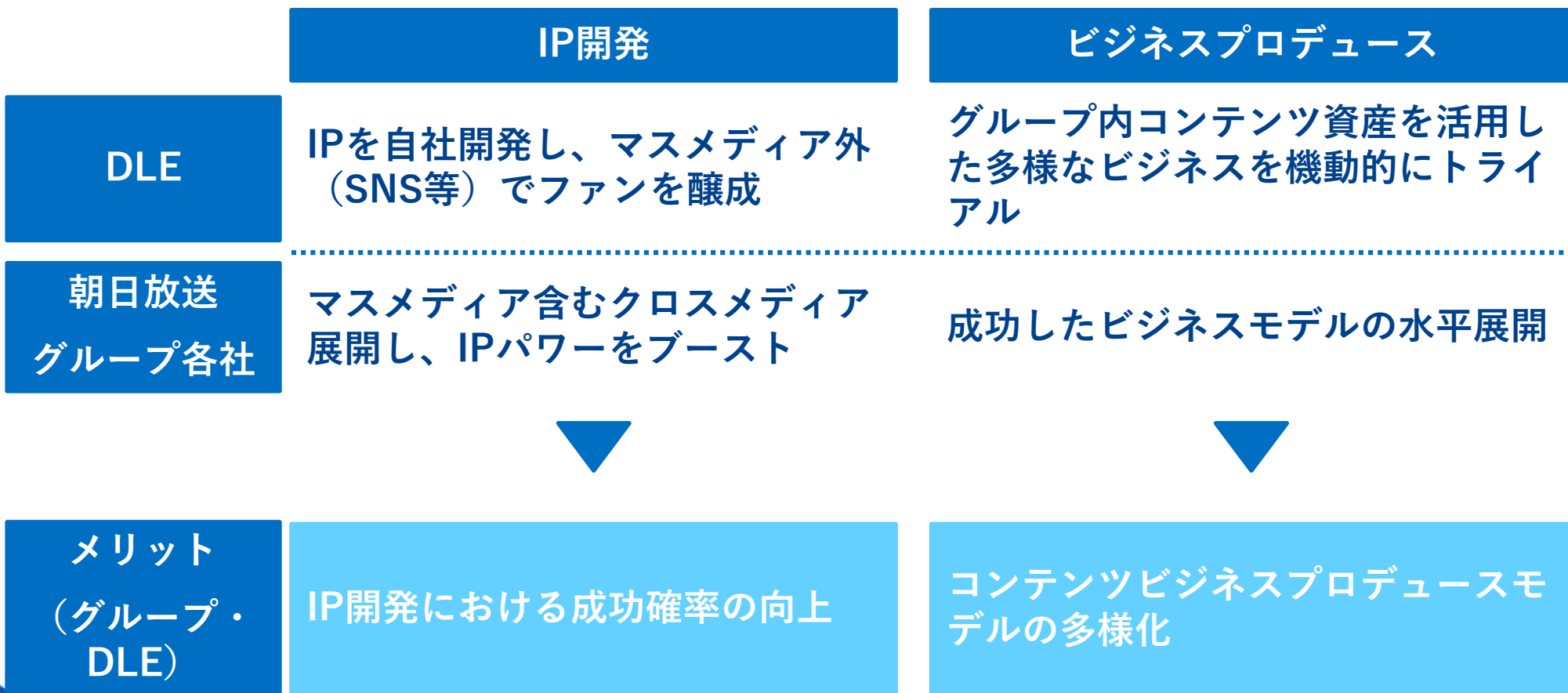
- 事業ビジョン再構築
- 管理体制の強化
- 事業プロデューサー拡充

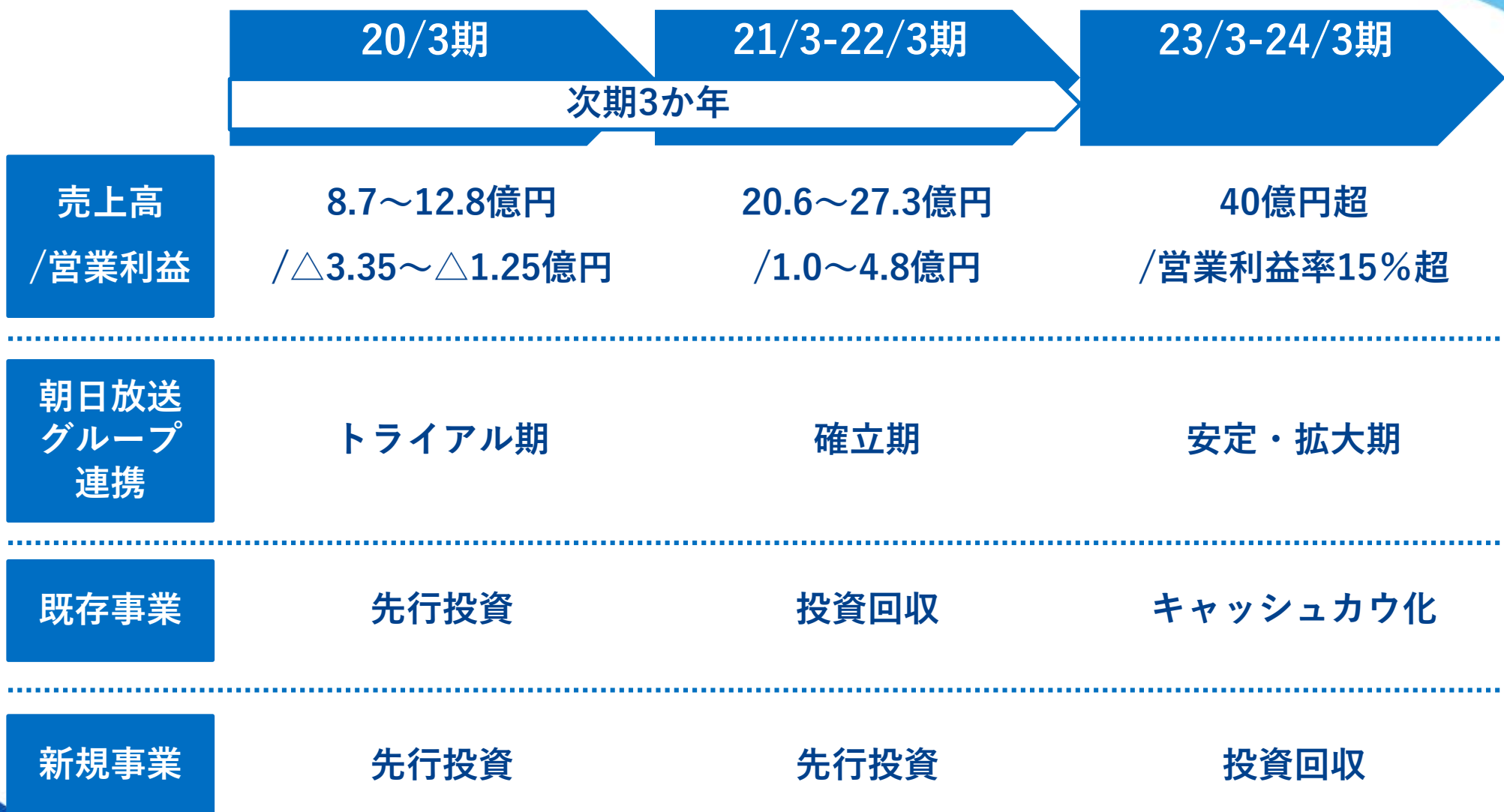
収益力を高め、企業価値を向上

- 事業パートナーの呼び込み（資本参加）
- 財務健全化
- 新規事業開発



## IP開発・ビジネスプロデュースの領域においてグループ貢献しながら成長

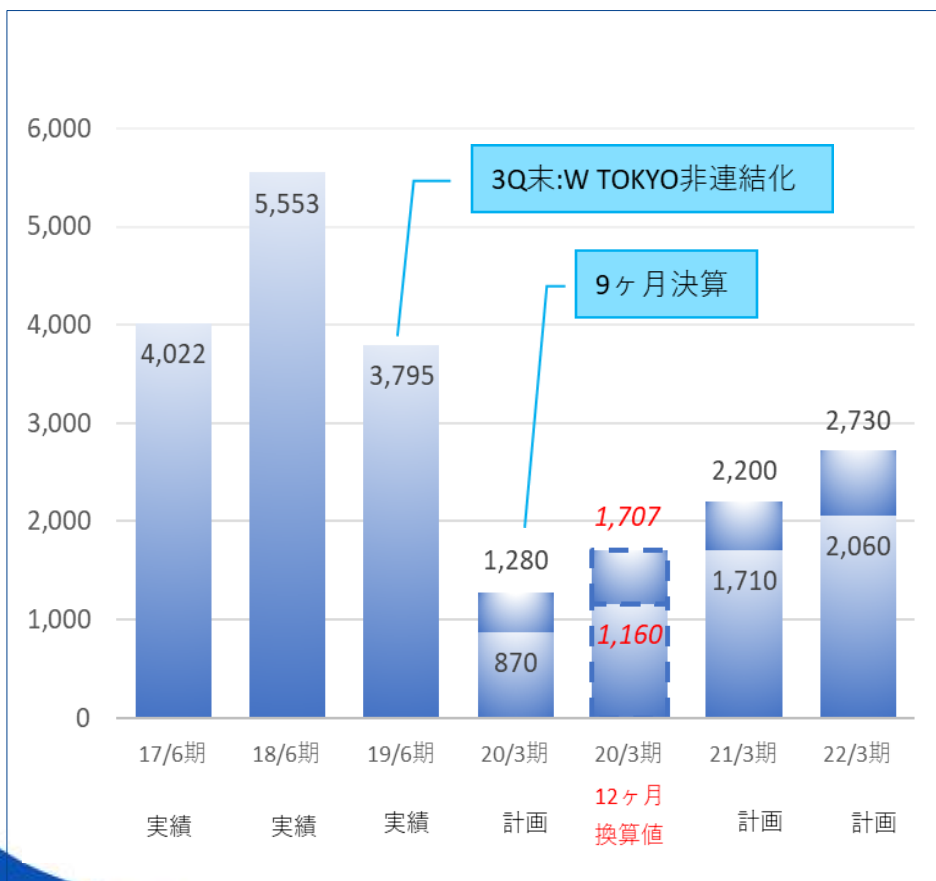




変化の激しい事業環境等を考慮し、2020年3月期以降についてもレンジ形式で策定

## 売上高

単位：百万円



## 営業利益

単位：百万円

